

■吉行エイスケ "ダダイズム"の小説を書き、妻安久利と美容院を開業、株の売買に専念し、夭折。吉行淳之介の父。

よしゆきえいすけ

満鉄発足・1906＝岡山県金川町で長男として生まれた。父は土木建築業で成功し、多額納税者であった。

明治天皇没・1912＝6歳：

21ヶ条要求・1915＝9歳：

本格政党内閣1918＝12歳：岡山一中に入学。

在学中にアナーキズムの影響を受け、東京に憧れ、

原敬首相暗殺1921＝15歳：水平社結成・1922＝16歳：中退し、一時、東京の目白中学に在籍、東京と岡山の間を往復。_【ダダイズム】に詩を発表。

関東大震災・1923＝17歳：弁護士の娘であったが、高女の時スペイン風邪の流行で弟以外の家族4人を失った松本安久利と結婚し、岡山市に住む。*【ダダイズム】の編輯兼発行者となり、詩を発表。

護憲三派圧勝1924＝18歳：長男淳之介誕生。_【売恥醜文】が創刊され、創刊号に戯曲、小説、散文詩、評論、感想文等を発表。

円本時代始・1926＝20歳：東京市池尻に転居。安久利は美容術結髪を習い始める。

世界恐慌・1929＝23歳：安久利が劇作家村山知義の設計の船のような形の建物で美容院を開業。*【葡萄園】の同人となり、編集事務を担当するとともに、「孟買縫紉隊」を発表し、好評。以後、新潮社等商業雑誌から原稿依頼を受ける。

海軍軍縮条約1930＝24歳：この年、上海に遊ぶ。_多くの小説を発表すると同時に、読売新聞・東京朝日新聞その他に沢山のエッセイを書く。また、各誌の座談会に出席。新興芸術叢書「女百貨店」を刊行。

満州事変・1931＝25歳：各誌にエッセイ、座談会等を盛んに発表。「新しき上海のプライベート」刊行。

五一五事件・1932＝26歳：この前後、3年程、日本大学芸術学科で講師を勤める。_この年から執筆が激変する。

国際連盟脱退1933＝27歳：*久野豊彦、漫画家の川原くにをらと新社会派の提唱として、大衆の生活と現代社会の機構を体験するために兜町に出入り、景気観測所の設立を試みる。のちに独立して、株の売買に専念。

帝人疑獄事件1934＝28歳：長女和子誕生。

芥川直木賞始1935＝29歳：

日中戦争始・1937＝31歳：

健保+総動員1938＝32歳：_「兜町の8時50分」を発表。蠣殻町に事務所を設け、株の信用買い等を始め、父の資産への影響を恐れて、廃嫡を願い出る。

第二次大戦始1939＝33歳：二女理恵子誕生。

大政翼賛会・1940＝34歳：_狭心症で急死した。

以後、安久利は美容院を経営しながら、子どもを育てた。